



「よさこいで元気を届けたい。楽しそうに見てくれたり、笑顔になってくれたら嬉しい」と、『花咲池田21』をはじめとする池田市内外の社会福祉施設などを訪問。自治体の祭りや文化祭にも出演している。地域交流も結成時から受け継がれる活動だ

「よさこいで元気を届けたい。楽しそうに見てくれたり、笑顔になってくれたら嬉しい」と、『花咲池田21』をはじめとする池田市内外の社会福祉施設などを訪問。自治体の祭りや文化祭にも出演している。地域交流も結成時から受け継がれる活動だ

りが認められて、2009年、よさこい部となった。主な活動は、体育祭や文化祭などの学校行事や、「箕面まつり」や「こいや祭り」など、一般のイベント出演。ボランティアで、地域の介護施設や教育施設への訪問も行う。老人ホームでは、利用者に鳴子を渡して一緒に鳴らしたり、地元のお祭りでは、輪になって子どもと一緒に踊ったり。曲は誰もが聞き覚えのある、親しみやすい曲を選び、踊り手も観客も一緒に楽しめるように工夫している。「ありがとう、また来てね」の声が嬉しく、地域との交流は、やりがいを感じる瞬間でもあるという。

「部活動紹介での踊りが迫力満点で格好良かった」と、入部動機も多く、よさこいの演舞に魅せられて。部長の柴香菜子さんは中学生の時から「I Z A笑舞」に憧れ、同校への進学を志し、そして高校入学前から入部を決めていたほど、思いが強い。

だが実際は、踊りながら声を出し、笑顔を見せることが想像以上に難しい。振りの一つひとつを全員で揃えることは、さらに至難の業。ダンスに精通した顧問がいるわけでもないため、技術面の指導は部員同士で行う。ミスは、役職や学年に関係なく、気づいた人がその都度指摘。「本気で言い合える分、仲も良いです」と、笑いながら答える彼女たちの姿が印象的で、互いに鼓舞し合う絆の強さを感じた。

通常の練習は週3回、放課後の2時間ほどだが、夏休みはほぼ毎日。炎天下で6時間以上も練習することがあるという。というのも、よさこいのイベントは夏が多いため、相当量の練習

時には6時間以上の練習も笑顔の裏にある努力と絆

が必要なのだ。何度も練習を重ねて創り上げる、圧巻の演舞の裏には、弛まぬ努力があるのだ。

華やかさと力強さが交差する14代目のオリジナル

楽曲や振り、衣装は、新3年生ごとにオリジナルを製作。曲や衣装は外部に発注する。イメージを伝え、納得できるまで何度もやり取りを行うそうだ。振りももちろん、部員が考える。今年の3年生、14代目の特徴は「男踊りと女踊りに分けて、振りで魅せる」と副部長の亀岡伽也乃さんと住友杏衣さん。「女踊りでは女性らしさを加えて華やかに、男踊りは力強さを演出し、曲調にもメリハリを。2つの変化



「振りを覚えるのは大変ですが踊りは楽しい！」と、左から亀岡伽也乃さん（副部長）、柴香菜子さん（部長）、住友杏衣さん（副部長）



を楽しみ、観客を盛り上げたい」と、新曲にかける情熱が伝わってきた。新曲の初披露は6月の校内体育祭。以降、一般のイベントや地域の祭りにも出演していく予定だ。そして9月の文化祭をもって3年生は引退を迎える。「新曲を納得できる仕上がりにして、やりきった達成感をもって後輩に繋ぎたい……」。14代目の心はひとつ、「I Z A笑舞」の熱い夏が、始まるうとしていいる。



(上写真)部員の多くは、ダンス未経験。新入部員は一般的に知られる『南中ソーラン』から覚える(下写真)代々受け継がれてきた思いを背負って



「ソーラン、ソーラン!」、校庭に響き渡る「南中ソーラン」の煽りとともに力強く舞うのは、「大阪府立渋谷高等学校」よさこい部「I Z A笑舞」。高校の部活動として、よさこい部の存在は珍しく、イベントでは社会人や大学生のチームに混じって活躍する。代々受け継がれ、チーム名の由来にもなっている「笑顔のために舞い踊る」の精神で踊る部員たち。よさこいの本場、高知の「よさこい祭り」が、戦後の復興と市民の健康・繁栄を願って生まれた祭りといわれるように、「I Z A笑舞」も「最高の笑顔で、観る人に元気を届けたい」との思いで活動している。



結成は2001年。衣装や機材、遠征などにかかる費用は全て自費で賄う同好会からのスタートだった。それにも関わらず、「大阪メチャハッピー祭」では「大阪市長賞」などの賞を受賞。次第にその活躍と頑張



踊りの祭典「大阪メチャハッピー祭」には毎年出演